

令和5年度 第3学期始業式式辞

新年あけましておめでとうございます。

皆さんそれぞれが、冬休みを有意義に過ごし、新たな決意や希望をもって新年を迎えたことと思います。令和6年、2024年が皆さんにとって、実り多い、素晴らしい年となりますことをお祈りします。

さて、今年は衝撃的な年の初めとなりました。

元旦の夕方、能登半島地震が発生し、最大震度7、同時に津波が日本海側の各地に押し寄せ、能登半島には東日本大震災以来の大津波警報が発令されました。その後も余震が連続的に発生し、これまでに震度1以上の地震は1200回を超えているようです。

翌日、二日には羽田空港で航空機どうしの衝突炎上事故が起こりました。

避けることのできない自然災害、避けることができたかもしれない事故。ニュースを見るたびに、やるせなく、もどかしい思いになりますが、皆さんはこれらのニュースをどんな思いや気持ちでみているのでしょうか。

特に、能登半島地震では亡くなられた方は昨日午後2時の時点で169人となり、安否不明者300人を超え、そして多くの方々が厳しく不自由な生活を余儀なくされています。皆さんとともにお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方へのお見舞いと懸命に救命や支援に当たられている方への感謝の気持ちを表したいと思います。

地震がお正月に発生したこともあり、またコロナ禍が落ち着き数年ぶりにふるさとに帰省をされていて被害に遭われた方も少なくないようです。どうか、不明者の方の早期救出と無事を願いたいと思います。

また、もしかしたら、皆さんのなかにも親戚や知り合いの方が被災されているという人もいるかもしれません。このあとクラスでも話があると思いますが、不安を感じたり、しんどい思いをしたりするようなことがあれば、遠慮なく先生方に伝えてください。話すことで少しは気持ちが楽になるかもしれません。

私は今回のことをとおして、「無事」という当たり前が、当たり前ではないことをあらためて考えさせられました。

日本国語大辞典では、「無事」という言葉に五つの意味が記されています。

1 とりたてて事のないこと。平穩であること。平和であること。また、そのさま。有事に対していう。

- 2 無病で、健康なこと。また、そのさま。
- 3 作為をもって行なわず自然のままであること。また、そのような境地やさま。
- 4 過失や事故がないこと。無難であること。また、そのさま。
- 5 すべき事がないこと。暇なさま。

たぶん私たちは、2・4番目の「事故がないこと。無難であること。健康であること」という意味で、「無事」という言葉を使っていることが最も多いように思います。

今朝からも「いってらっしゃい」と言われながら、家を出ていた人もいるでしょう。そこには「気をつけて」「無事に帰ってきなさいよ」などの思いが込められています。

一方、異なった意味で「無事」という言葉が使われることがあります。

お茶会の席（茶道）で、「無事」とか「今日無事」と書かれた短冊や掛け軸が掛けられることがあります。お茶席に掲げる言葉は禅語と決められていて、文化祭の茶華道部の茶席にも必ず掲示されています。茶を楽しむ文化が、中国の禅宗の僧によって日本に伝えられたことによるものです。

禅語でいう「無事」は先の3番目の「作為をもって行なわず、自然のままであること。また、そのような境地やさま」という意味で使われます。要は、「自分の本当の姿でいること」「ただあるがままの自分でいること。他に求めない心」「あるがままの自己を認めること」の大切さを説いています。「自然なありようの自分を尊く思う」とも言えます。

人によく思われようと作り笑いしたり、「〇〇してはいけない」と自分を必要以上に抑圧したり、人に合わせようと自分の本当の思いを我慢したり、我慢して別の自分を演じたりしたり・・・無事ではない日々を私たちは過ごしていないでしょうか？

「今日無事」

今日一日が事故なく、怪我をせず、病気にもならず、無事に過ごせたという当たり前のことを感謝するとともに、あるがままの素の自分で過ごすことで自然と湧き出る幸せを感じて欲しいなとも思います。

君たちのかけがえのない毎日を、「今日無事」に過ごしてくれることを願っています。

高校3年生の皆さんは、奈良学園での授業をすでに終えて、今は大学入学共通テストに向けて、最後の追い込みをかけているところですよ。とにかく体調に気をつけて頑張ってください。続きは、この後の激励会で話をします。

最後に、今年は辰年。草木が芽生え、動きだし、伸びていく年とも言われています。皆さんには、心身ともに健康で、自己実現に向けての大いに伸びる年にしていくことを期待して、私の話を終わります。

以上